

リスク感度向上に向けた研究 — リスクを積極的に見つけよう とする態度についての検討 —

小倉 有紗

米沢 隆史

田中 千尋

1 はじめに

1.1 目的

私たちが事故につながり得るリスクに適切に気がつくためには、日頃からリスクを具体的に考えたり、仲間の意見や過去事例を参考にしたりするなど、「リスクを積極的に見つけようとする態度」を高く保ちながら業務に臨むことが必要であると考えられます。本研究では、2024 年度に JR 西日本で全社的に実施された安全に関する意識アンケート(以下「安全アンケート」)の回答を用いて、「リスクを積極的に見つけようとする態度」に関する事柄について検討しました。その際、「他山の石など他箇所が発生した事象を自分自身に関連付けて考える傾向(自分ゴト化傾向)」と、JR 西日本が取り組んでいる『「確認ですが」の取り組み』に着目して分析を行いました。

1.2 自分ゴト化傾向

昨年度までの「リスク感度向上に向けた研究」¹⁾²⁾では、「事故やヒヤリハットについて書かれたリスク情報を読む」ということを通して、リスク感度を向上させる可能性について検討しました。この研究では「工場で荷物用リフトの操作ボタンを誤り、リフトが他の作業者に衝突しそうになった」等、様々な場面のヒヤリハット事例を読んだ後、イラストを見ながら事故に結びつく可能性のあるリスクを探してもらうという実験を行いました。その結果、年齢層の低い実験参加者(35 歳未満)での比較において、自分ゴト化傾向が高い人は、ヒヤリハットの情報をもとにリスクについて学び、自分が経験していない場面でもリスクの発見に活かすことができていることが示唆されました。

つまり、自分ゴト化傾向の高い人は、他山の石などから得た情報を、自分を取り巻く環境にうまくあてはめて考えることができているといえます。このことから、自分ゴト化傾向が高い人は、リスクを積極的に見つけようとする傾向も強いのではないかと予想しました。

1.3 「確認ですが」の取り組みについて

JR 西日本グループでは『「確認ですが」』『確認ありがとう』を合言葉とする取り組み」を

全社的に進めています³⁾。この取り組みは、「少しでも疑問に思うことがあれば、相手の組織や立場に関わらず、『確認ですが』と躊躇せずに相手にそれを伝える、そして『確認ですが』と投げかけられたら『確認ありがとう』という言葉と共にその内容を受け止める」ということを、徹底しようというものです。安全のために気になることがあれば、必ず相互に確認することで、リスクが見つかったにも関わらず対処されないままとなり、事故につながってしまう事態を防ぐことを狙いとしています。本研究では、この取り組みを実際に実践している程度(「確認ですが」実行度)と、リスクを積極的に見つけようとする態度との間に関連があるかに注目しました。

2 分析内容

2.1 分析対象者

本研究では、現場で業務にあたる社員に焦点をあてることとし、車両・施設・電気系統のうち、本社や支社の課室を除いた直接部門の職場に所属する実務層の社員 3,637 名の回答を分析対象としました。

2.2 分析した項目

安全アンケートの質問のうち、(1) リスクを積極的に見つけようとする態度、(2) 自分ゴト化傾向、(3) 「確認ですが」実行度に関連している質問を抜粋し、その質問に対する回答を得点化しました。そして、これらの関係性について分析しました。表 1 に、それぞれの代表的な質問を示します。

表 1 分析対象とした項目ごとの主な質問

(1) リスクを積極的に見つけようとする態度		選択肢:まったくあてはまらない～非常にあてはまる(6段階)
私は、自分なりの目線でリスクを具体的に考えている		
私は職場の仲間の意見や他山の石も参考にしてリスクを考えている		
		など3項目
(2) 自分ゴト化傾向		選択肢:まったくあてはまらない～非常によくあてはまる(5段階)
他社や他部署で起こったトラブル事例を見聞きしたときは、自分の仕事や作業に置き換えて考える		
		など11項目
(3) 「確認ですが」実行度		選択肢:まったくあてはまらない～非常にあてはまる(6段階)
私は、不安に思う事、おかしいと思うことなど、少しでも気になることがあれば、		
「確認ですが」を用いて相手に伝えている		
		など4項目

2.3 倫理的配慮

安全アンケートを利用して研究を行うことについては、事前に、安全研究所実験等倫理委員会の承認を得ました(申請番号第 24-11 号)。

3 分析結果

図1と図2に、アンケート協力者の自分ゴト化傾向と「確認ですが」実行度のそれぞれと、リスクを積極的に見つけようとする態度を示す得点(6点満点)の関係を示します。自分ゴト化傾向、「確認ですが」実行度のいずれについても、高い得点を示した回答者ほど、リスクを積極的に見つけようとする態度の得点も高いことが示されました。

図1 自分ゴト化傾向とリスクを積極的に見つけようとする態度の関係

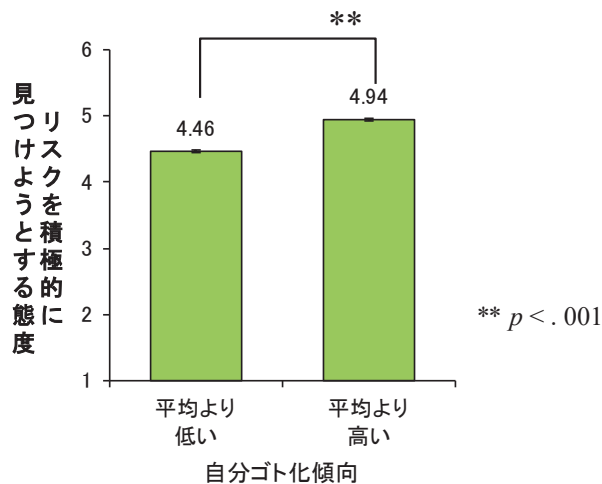
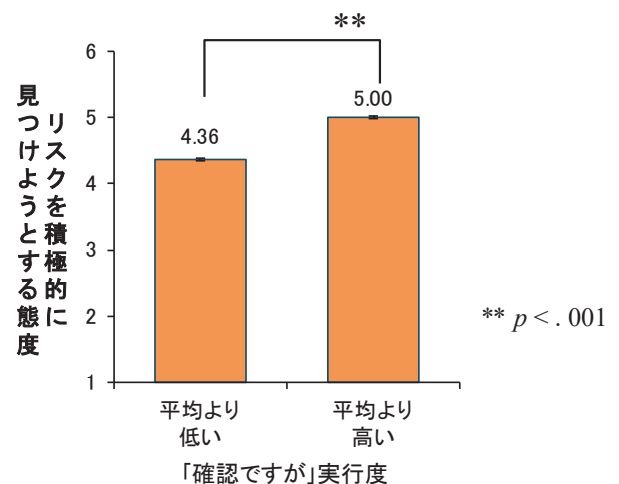
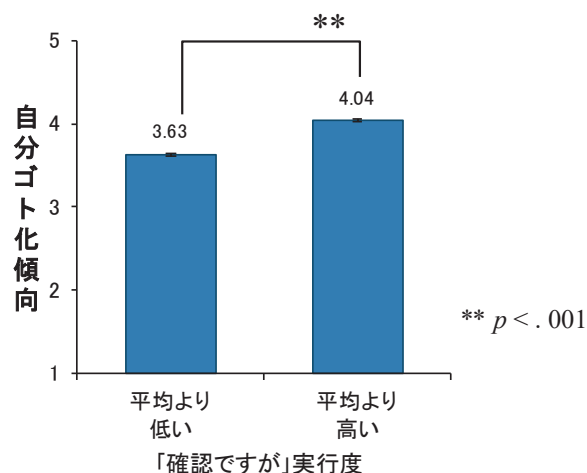


図2 「確認ですが」実行度とリスクを積極的に見つけようとする態度の関係



次に、「確認ですが」実行度と、自分ゴト化傾向の関係に注目しました。図3に示すように、「確認ですが」実行度の得点が高い協力者は、自分ゴト化傾向の得点(5点満点)も高く

図3 「確認ですが」実行度と自分ゴト化傾向の関係



なっていることがわかりました。

4 まとめ

今回得られた結果から、自分ゴト化傾向とリスクを積極的に見つけようとする態度には関連があり、社員一人ひとりの自分ゴト化傾向を高めることが、社員がリスクを積極的に見つけようとする態度を促すことにつながる可能性があることが示されました。

また、職場内で、「確認ですが」を用いたコミュニケーションが積極的に行われている環境であるかどうか、リスクを積極的に見つけようとする態度と関係していることが明らかになりました。気がかりを見つけた人が、それを気兼ねなく職場の他のメンバーに伝えることができれば、伝えられた側も、どんな状況が事故につながり得るのかについての理解を深めることができます。そのことがリスクを積極的に見つけようとする態度を高め、新たなリスクの発見につながるかもしれません。「確認ですが」とリスク感度の間には、このような循環が生じている可能性があることが示される結果となりました。

さらに、今回の結果は、「確認ですが」を用いたコミュニケーションと、自分ゴト化傾向に関連があることも示されました。これまでの研究から、すでに、心理的安全性と自分ゴト化傾向に関連があることが示されています^リが、それとも整合性のある結果です。様々なリスクについて、気兼ねなく議論することで、「自分にも関係するかもしれない」という意識が育ちやすいのかもしれません。こうした点について、今後、より深く検討していきたいと思います。

私たち一人ひとりが、自らが見つけたリスクを周囲に共有しあうことを心がけ、また、それを促す環境を推進していくことが、「一人ひとりが、リスクに事前に気づき、事故を防止することができる組織」づくりにつながっていく可能性があると言えそうです。

【文献】

- 1) 小倉有紗. リスク感度向上に向けた研究—自分ゴト化」の効果に着目して—. あんけん, 17. pp. 36-37, 2024.
- 2) 小倉有紗・中井宏・秋保亮太・和田一成. 「自己への置き換え」が危険感受性に及ぼす影響について. 産業・組織心理学会第 39 回大会発表論文集, pp.192-193, 2024.
- 3) 西日本旅客鉄道株式会社. "2021 年 3 月 17 日: News Release 「将来にわたる鉄道の安全の実現に向けて」の策定について".
https://www.westjr.co.jp/press/article/items/210317_02_press.pdf, (参照 2025.2.12).